

SIG- での検討の進め方(案)

1 利用シーン1及び利用シーン2を実現するためのシステムの整理

- (1) 提案システムをモビリティ、カバレッジ、導入想定時期の観点から次の3カテゴリに大分類する。
 - 第3世代携帯電話もしくは第3世代携帯電話の高度化システム
 - 第4世代移動通信システム(2010年以降に導入が想定されているシステム)
 - 上記以外のワイヤレスブロードバンドシステムで、一定のモビリティを有するシステム
- (2) 上記それぞれの分類の中で、データレート、基本的なセル構成、国際的な規格等を基に小分類する。
- (3) 小分類毎の特徴を明確化するために、電波の有効利用の視点等「ワイヤレスブロードバンドの基本的な視点」を踏まえ整理する。

2 諸外国・標準化等の動向

- (1) 各標準化機関における標準化動向
ITU、3GPP、3GPP2、ETSI、IEEE
- (2) 各方式の諸外国における導入及び取組状況
米国、欧州、韓国等

3 サービスイメージの明確化

～ の3つのカテゴリについて、サービスイメージの明確化を行う。項目は下記のとおり。

- ・ サービス提供者
 - ・ サービス提供形態及び端末イメージ
 - ・ 提供するアプリケーション
 - ・ 利用可能な地域・場所
- 等

4 需要・ニーズの分析についての検討

～ の3つのカテゴリについて、5年後(2010年)及び10年後(2015年)の普及率(加入者数)、需要の成長予測(市場規模等)を行う。

普及率(加入者数)の予測については、国際的な標準化機関における検討を踏まえ、想定される各種アプリケーションを考慮して行う。

5 望ましい周波数幅の検討

～ の3つのカテゴリについて、望ましい周波数幅の検討を行う。

周波数幅の検討は、国際的な標準化機関において一定のコンセンサスが得られている方法あるいは値等を基に算出する。

6 望ましい周波数帯、導入時期についての検討

各周波数帯における既存システムの利用状況、電波の伝播特性、電波政策ビジョン及び周波数の再編方針、望ましい周波数幅、国際的な検討状況(ITU-R WP8F における検討、IMT-2000 プランバンド等)等から、～ の3つのカテゴリについて望ましい周波数帯を検討する。

7 SIG- の報告書をまとめる。